

品番：SC-70 品名：水性ユートン フロアー用

(水性アクリルウレタンエマルジョン塗料)

仕 様 書

玄々化学工業株式会社

◇ ホルムアルデヒド放散等級

F☆☆☆☆ [(社) 日本塗料工業会登録 登録番号 G01004]

※F☆☆☆☆は建築基準法における屋内に面積の制限なく使用できる建築材料を示す規格です。

◇ 特長

- ① 臭いの少ない安全な塗料です。
- ② 水性アクリルウレタンエマルジョン
- ③ 高光沢、レベリングに優れています。
- ④ 刷毛塗り、アプリケーションでの作業性がよい。
- ⑤ 適度なノンスリップ性と弾力性があり滑りにくく、足に負担をかけません。
- ⑥ 耐ヒールマーク性に優れています。
- ⑦ 水性のため不燃性で、引火性がない。
- ⑧ 学校環境衛生基準適合

◇ 用途

屋内木部全般・学校の教室。公共施設など

◇ 塗装方法

刷毛塗り、コーティングモップ

◇ 配合比

原液で使用（必要であれば水にて適宜希釈）

◇ 塗膜物性試験

塗装品番：SC-70（水性ユートン フロアー用）

試験材料：カバ無垢材に3回塗りし、1週間乾燥させた後評価

試験項目	試験方法	試験結果
指触乾燥時間	20℃で評価	1時間
光沢	60℃鏡面反射グロス値	85以上
肉持ち感	目視確認	○
塗膜色	目視確認	微黄色透明
耐酸性	5%酢酸 6時間	○
耐アルカリ性	1%炭酸ナトリウム 6時間スポット後水洗い拭き取り	○
耐アルコール性	60%エタノール 6時間スポット後水洗い拭き取り	○
耐シンナー性	ウレタンシンナー 6時間スポット後水洗い拭き取り	○
耐衝撃性	デュポン式 1/2インチ 300g30cm	○

◇ 塗装工程

適用範囲：内装木部床材全般（未塗装部材への場合）

仕 上 げ：水性クリヤー仕上げ

工程	使用材料／配合比（重量比）	塗布量 （1回）	乾燥時間 （20℃）
1	素地調整	油分等の汚れを除去後、サンダー、ポリッシャーで平滑になるように研磨し、除塵する	
2	下塗り	水性ユートン（SC-70） 100	80 g ～100 g /m ² 8 時間以上
3	研磨	ポリッシャー研磨 P120～P150 で全面平滑にする	
4	中塗り	水性ユートン（SC-70） 100	80 g ～100 g /m ² 8 時間以上
5	研磨	ポリッシャー研磨 P120～P150 で全面平滑にする	
6	上塗り①	水性ユートン（SC-70） 100	80 g ～100 g /m ² 8 時間以上
7	上塗り②（*）	水性ユートン（SC-70） 100	80 g ～100 g /m ² 24 時間以上

（*）最終仕上げ前に塗面の汚れ等を確認し、必要であれば塗面研磨後に塗装を行って下さい。

6.上塗り①と、7.上塗り②のインターバルは 20℃3 日以内として下さい。

※塗替えの場合には、旧塗膜を取り除いた後に塗装を行って下さい。旧塗膜が残っている場合、密着が悪くなる事があります。

※塗布量については 1 回塗りの目安として下さい。

※下塗り（SC-70）→上塗り（SC-39）の組み合わせも可能です。

◇ 体育館フローア塗料の滑り試験

○滑り抵抗指標

試験方法	JIS A1454：201017 滑り性試験による
滑り抵抗係数（C.S.R）	0.95

塗装方法：カバ材 3 回塗り

測定器：ONO-PPSM

安全歩行 C.S.R 範囲：0.38～1.03

◇ 注意事項

- ① 塗料使用後は必ず密栓をし、冷暗所に保管して下さい。(凍結しない場所)
- ② ご使用前には塗料を十分攪拌してからご使用下さい。
- ③ 塗布量が多すぎると乾燥が著しく遅くなり、ツヤムラ・乾燥不良の原因になりますのでご注意下さい。又、塗布量が少なすぎると、塗料の性能が十分出ない可能性があります。標準塗布量を遵守して下さい。
※塗布量は、素材の種類によって異なりますので、あくまでも目安として下さい。
- ④ 塗装前に、素材の汚れ、ヤニ、ワックス等を除去してから塗装して下さい。
- ⑤ 5℃以下でのご使用は避けて下さい。(乾燥時間が著しく遅くなります)
- ⑥ 塗装時に使用した道具は、温水石鹼で洗浄後、溶剤（アセトン）にて洗って下さい。
- ⑦ どのような場合でも換気に十分注意して下さい。
- ⑧ 決して飲まないようにして下さい。もし、誤って飲んでしまった場合には、直ちに医師の処置を受けて下さい。
- ⑨ 目に入らないようにして下さい。目に入った場合は、直ちに大量の水で目を洗い医師の処置を受けて下さい。
- ⑩ 皮膚についた場合には、石鹼で水洗いして下さい。
- ⑪ 初めて本製品をご使用される場合には、必ず目立たない場所で試し塗りを行って下さい。
- ⑫ 他社製品との併用についても同様に試し塗りを行って下さい。
- ⑬ 製品の取り扱いに当たっては、安全データシート（SDS）に従って下さい。

◇ 廃棄方法

- ① 少量の場合には、吸収材（新聞紙等）に染み込ませ乾燥後適切な場所に廃棄して下さい。
- ② 量が多い場合には、専門の処理業者に依頼して廃棄して下さい。
- ③ 水路や下水道には流さないで下さい。